

製品名: 切断型 C1r HC (R463) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08949**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	51kDa

抗原情報

遺伝子名	C1R
別名	C1R; Complement C1r subcomponent; Complement component 1 subcomponent r
遺伝子 ID	715.0
SwissProt ID	P00736
免疫原	抗血清はヒト C1R 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 414-463

背景

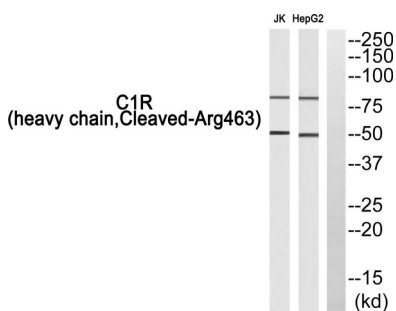
触媒活性:補体サブコンポーネント C1s の Lys(または Arg)-Ile 結合を選択的に切断して、C1s の活性型 (EC 3.4.21.42) を形成します。機能:C1r B 鎖は、C1q および C1s と結合して補体系の古典的経路の最初のコンポーネントである C1 を形成するセリンプロテ

アーゼです。多型補体コンポーネント C1r 欠損 [MIM:216950] は、古典的な補体系活性化経路の障害 (C1 欠損) につながります。C1 欠損症の人は微生物による感染症に非常にかかりやすく、全身性エリテマトーデス (SLE) などの自己免疫疾患を発症するリスクが高くなります。PTM: 鉄および 2-オキソグルタル酸依存性のアスパラギン酸およびアスパラギンの 3 位水酸化は、EGF ドメイン内で (R) 立体特異的です。類似性: ペプチダーゼ S1 ファミリーに属します。類似性: 1 つの EGF 様ドメインを含みます。類似性: 1 つのペプチダーゼ S1 ドメインを含みます。類似性: 2 つの CUB ドメインを含みます。類似性: 2 つの Sushi (CCP/SCR) ドメインを含みます。サブユニット: C1 は、C1q、C1r、および C1s のモル比が 1:2:2 のカルシウム依存性三分子複合体です。C1r は同一鎖の二量体であり、各鎖はジスルフィド結合でつながれた 2 つの鎖 (A 鎖と B 鎖) に切断されることによって活性化されます。触媒活性: 補体サブコンポーネント C1s の Lys(または Arg)-Ile 結合を選択的に切断して、C1s の活性型 (EC 3.4.21.42) を形成します。機能: C1r B 鎖は、C1q および C1s と結合して補体系の古典的経路の最初のコンポーネントである C1 を形成するセリン プロテアーゼです。多型補体コンポーネント C1r 欠損 [MIM:216950] は、古典的な補体系活性化経路 (C1 欠損) の障害につながります。C1 欠損症の人は微生物による感染症に非常にかかりやすく、全身性エリテマトーデス (SLE) などの自己免疫疾患を発症するリスクが高くなります。PTM: 鉄および 2-オキソグルタル酸依存性のアスパラギン酸およびアスパラギンの 3 位水酸化は、EGF ドメイン内で (R) 立体特異的です。類似性: ペプチダーゼ S1 ファミリーに属します。類似性: 1 つの EGF 様ドメインを含みます。類似性: 1 つのペプチダーゼ S1 ドメインを含みます。類似性: 2 つの CUB ドメインを含みます。類似性: 2 つの Sushi (CCP/SCR) ドメインを含みます。サブユニット: C1 は、C1q、C1r、および C1s のモル比が 1:2:2 のカルシウム依存性三分子複合体です。C1r は同一の鎖の二量体であり、各鎖はジスルフィド結合によって接続された 2 つの鎖 A と B に切断されて活性化されます。

研究分野

補体および凝固カスケード;全身性エリテマトーデス;

画像データ



C1R (重鎖、切断型 Arg463) 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンには C1R (重鎖、切断型 Arg463) ペプチドでブロッキングされている。